

地域人間発達支援学プログラムの 教育における3つのポリシー

1.ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

- ・ 人間発達支援学に関する高度な専門知識・技術を身に付けて、社会的課題を理解し解決する能力を修得
- ・ 多様な地域や家庭で育つ子どもや青少年の発達・成長を支援するのに必要な、学際的な思考力や課題の分析能力を修得
- ・ 学校や地域の教育・生活・環境・医療・芸術等の関係機関や団体と連携し支援するのに必要な協働力を修得
- ・ 地域の人間発達支援の実践者として求められる高度なリーダーシップやコミュニケーション能力を修得

2.カリキュラム・ポリシー（学修・教育目標を達成するための教育体系）

【教育課程編成の方針】

ディプロマポリシーとして掲げた修了認定の基準を実現するため、高度な学際的思考力・実践力や境界領域・異分野の専門知識・技術を養成するとともに、研究テーマに関連した学位プログラム間の連携・融合を図るカリキュラム編成・研究指導を実施する。

【教育内容の学修方法】

次に掲げる科目を配置し、これらを事例研究、グループワーク、フィールドワーク、ワークショップなどの方法により主体的な学修を行う。

- ・ 人間発達支援の専門家として必要な研究・実践倫理、分野横断的に共通する探求課題やリテラシーを理解し、基本となるスキルを身に付けるための必修科目を配置
- ・ 人間の内面的諸相とその発達・成長及び地域社会における課題との関連を学ぶための基盤科目を配置
- ・ 各ライフステージにおける包摂的で多様な学びの必要性を理解し、地域社会での実践スキルを身につけるための応用科目を配置
- ・ 境界領域との学際的思考力やコミュニケーション力を身に付けるため、領域を越えた主指導・副指導体制で研究を行う演習科目を配置

研究指導に当たっては、主指導教員1名と副指導教員2名の計3名を配置し、この内、第1副指導教員は学位の専門性を担保するために同じ学位プログラムの教員から、第2副指導教員は、専門分野に対して境界領域や学際領域の観点から学生の研究進捗や専門能力の修得に対して指導を行い、最終的に高度な専門力と実践力を身に付けさせる。

【学修成果の評価方法】

学修成果の評価は、授業科目ごとに定める達成目標に応じ、科目の態様に従って、試験、レポート、作品、発表などにより評価する。修士論文及び特定の課題についての研究成果に係る評価は、大学院学位論文等評価基準（博士前期課程）に基づき評価する。

3. アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

【求める学生像】

- ・ 地域人間発達支援学を学修するために必要な教育・心理学、健康・生活科学、言語・芸術学などの基礎学力を有する人
- ・ 創造的思考力と主体的な行動力を持ち、人間発達支援に関する新しい課題の解決に挑戦する意欲のある人
- ・ 人間発達支援学を通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲のある人

入学者選抜の基本方針については[こちら](#)